

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成29年8月31日現在

今月の重点活動

■新規就農者 岐阜市の園芸品目就農状況現地確認

8月1日～3日、岐阜市内で平成23年度以降にいちごや施設野菜、露地野菜等で新規就農した15名に対し、岐阜市役所、JAぎふの関係機関と農林事務所が連携して、就農後の経営状況の現地確認を行った。

苗の活着やハウス内での病害対策の状況等栽培技術や、経営規模の拡大に伴う農地・資金の確保などに関する課題を聞き取り、関係機関から改善方策や今後の対応等について助言した。

農業普及課も関係機関と連携しながら、経営安定と営農定着に向けて、今後も継続して支援していく。

(地域支援第一係・小島康平、園芸産地支援第一係・高橋幸蔵、三和浩一、川部 知)



【現地確認の様子】

新たなブランドづくり

■にんじん のぼり原案決定

8月2日、JAぎふ鵜沼支店において、消費宣伝に使用するのぼり旗の原案が決定された。

各務原市、JAぎふ、にんじん部会、岐阜農林事務所の各担当者が、デザイナーの作成案から2種類、①JAが支店などで常設するタイプ、②市がにんじんの日（消費週間）に設置するタイプを選定した。

のぼり旗には、にんじんイメージキャラクターの「かかみちゃん」が楽しそうに描かれており、今後の活用が楽しみである。

(地域支援第二係・魚住雅信)



【のぼり旗の確認】

多様な担い手づくり

■土地利用型 JAぎふ水田農業担い手連絡協議会研究交流会開催

8月7日、第10回JAぎふ水田農業担い手連絡協議会研究交流会が開催され、JAぎふ管内の水田農業担い手約300名が参加し、今後の水稲経営についての講演や情報提供・意見交換が行われた。

農林水産省から「米をめぐる情勢と平成30年産以降の米政策について」、JAぎふから「ハツシモの複数年契約の推進について」、県農産園芸課から「GAPの推進について」、JA全農岐阜から「肥料銘柄集約による資材コストの低減について」それぞれ情報提供した。

また、米・食味鑑定士協会の鈴木会長より、「マーケットから求められる米の品質と食味」について講演が行われ、岐阜ハツシモSLの有利販売の可能性について力強くアドバイスされた。参加した生産者からは、「今後の経営の参考になった」との声が上がり、好評であった。

(地域支援第一係・小島康平)



【研究交流会の様子】

売れるブランドづくり

■水稲 GAP支援

7月28日、瑞穂市の水田農業担い手が、GAPアドバイザー派遣制度を活用し、特認指導員から農場の管理点と適合基準についてチェックを受けた。

当担い手は、JGAPアドバンスの認証を予定しているものの、米の乾燥は共同乾燥施設を利用し、乾燥後はJGAP基準に適合しないため、今回は乾燥以前の工程における籾の認証とし、8月24日にはJGAP審査を受け、指摘を受けた項目について改善し、認証を受ける



【農場評価の様子】

予定である。

農業普及課では、審査とその後の改善が円滑に進むよう、JGAP認証の取得を支援する。
(地域支援第三係・岡田隆史)

■羽島市水稻種子採種組合 **現地研修会・採種ほ抜き穂作業**

8月9、10日の2日間、羽島市水稻種子採種組合は現地研修会を各地区（足近、小熊、桑原）で開催し、組合員の水田を巡回して生育及び幼穂を確認するとともに、今年の生育状況に合わせた栽培の注意点や穂肥施用の時期等について意識統一した。

また、8月25日に、同採種ほ場において、出穂期の抜き穂作業を各地区で行った。この抜き穂作業では、出穂期審査前に、組合員、種子審査員及び関係機関で、早く出穂した稲株や異形の稲株等を除去した。今年は、斑入りの株は確認されたものの、出穂の早い稲株は見当たらなかった。

農業普及課は、研修会の開催を全面的にサポートするとともに、種子審査員として9月初めに、出穂期審査を行い、県内の生産者が安心して使用できる高品質な種子生産に向け、今後も支援を行う。
(地域支援第二係・今井啓司)



【ほ場巡回の様子】

■アスパラガス **視察研修会開催**

8月8日、JAぎふアスパラガス出荷協議会の生産者9名が、「揖斐アスパラガス部会」の生産者ほ場を視察した。

揖斐アスパラガス部会員から、栽培状況などについて説明を受けた後、参加した協議会員からは、肥培管理や灌水管理などについて質問が多く出され、有意義な視察研修会となった。

農業普及課では、今後も協議会の活動を支援し、アスパラガスの産地振興を図っていく予定である。

(園芸産地支援第一係・松浦香絵)



【ほ場を視察する様子】

■岐阜地域直売所組織 **農産物直売所研修会開催**

8月1日、岐阜地域朝市・夜市連合に加入している組織を中心に、農産物直売所研修会を開催した。

先進直売所の事例発表として、(一社)郡上旬彩館の主任より、集客や売り上げを伸ばす取り組みについて講演があり、農業普及課からは、「直売所向け果樹の品目と栽培管理のポイント」と、「農薬の上手な散布について」と題して情報提供を行った。

参加者へのアンケートでは、「参考になった」、「高齢者対策として果樹に取り組むのも良いのでは」などの意見があった。

(地域支援第三係・宮木英有)



【研修会の様子】

住みよい農村づくり

■だいこん **農業フェスティバル用だいこんほ場準備**

JAぎふ大根部会は、岐阜県農業フェスティバルにおいて、トラック荷台でのだいこん直売を恒例としており、来場者から好評である。

本年も、10月28日～29日に開催予定の第31回に向けて、8月13日に部会の青壮年部役員がだいこんほ場の播種前準備を行った。今後は、同フェスティバルに出荷できるよう、播種や管理をしていく。

農業普及課も、「岐阜大根発祥の地」のPRと産地発展に向けて、JA等関係機関と連携しながら、ほ場管理等を支援していく。

(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)



【だいこんほ場準備】